

22 特定非営利活動法人 ちいきむすび



所在地：東京都杉並区方南2-16-6 株式会社EATプランニング内 URL：<https://chiikimusubi.org/>

妊娠から子育て期の親や子どもへの食事 支援と調理方法指導と安心相談窓口事業



実施期間

令和6年12月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 1,571,000円
(備品等購入費、ホームページ開設費、賃金、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- これまでの「ちいき食堂」活動の中で、利用者が「産前産後・疾病時の食事」「料理への苦手意識」「一人での子育て」に関する悩み・課題を抱えていることが分かった。このことから、更なる悩みの顕在化とそれらを軽減する支援活動が必要であると認識した。
- そこで、新たに3つの支援事業を実施する。妊婦、子育て家庭を主な対象として、食の悩み軽減を入口に、妊娠・子育ての悩みへの支援につなげ、誰もが健やかに少しでも生きやすい社会を目指す。
- 利用は会員登録制とし、サービス提供側も責任をもって課題に取り組む。ご近所にある気軽なスポットとしての性格付けをめざし、支援機関や他団体と連携し地域全体での支援につなげる機能を持たせる。

【事業内容】

- 妊婦と家族、ひとり親家庭などへの食事サポート（引き取り・配達サービス含む）
栄養と安全に配慮した食事を提供。負担軽減を図りながら接触機会を増やし悩みに寄り添う。

○子育て家庭向けのお料理教室

手軽な食材で簡単に作れるメニューを中心とした家族で参加できる教室。料理の技を身につけてもらい自立的食生活を可能にする。

○親と子を対象とする子育てなんでも傾聴クラブ（安心して話せる相談窓口）

きめ細やかに寄り添い、信頼関係を築く。専門機関を紹介するなど途切れない支援を行い、心の負担軽減、問題の未然防止を図る。

成果目標・事業計画

【成果目標】

<指標>

各事業の実施日数とそこでの支援量（食数）、参加人員、受けた相談数

<目標値>

○食事サポート

実施日数：8日/月

提供食数：80食/月

○料理教室

開催回数：1回/隔月

利用者数：6名/回

- 傾聴クラブ
- 開催回数：2回/月
- 実際の相談件数：4件/月

【事業計画】

- 令和6年12月
 - ホームページ開設、広報開始
 - 実施場所の改修、備品などの準備
- 令和7年1月以降
 - 食事サポート 火・金曜日（緊急随時）
 - 料理教室 隔月1回開催（日曜日）
 - 傾聴クラブ 月2回開催（随時）

実施状況・成果

【実施状況】

- 令和6年12月

事業のニックネームを「子育て応援クラブ」とし、広報、会員募集・登録、スタッフ雇用・訓練を開始した。
- 令和7年1月～

3つの事業実施を順次開始

 - 【夕食サポート】
 - 1月：実施7日/4家族/97食
 - 2月：実施7日/11家族/134食
 - 3月：実施7日/11家族/144食
 - 【レシピのない料理教室】
 - 2/16開催 3家族6名参加
 - 親子で楽しくちらし寿司を作って食べた。
 - 【おはなしルーム】
 - ・箱庭セラピー 実施4回/参加6組8名
 - ・アフタヌーンティーの会 実施1回/参加1組
 - ・利用者面談（個別）実施3回/利用18名
- ホームページとLINEで、支援紹介、会員募集、会員登録、サポート告知、会話ができるインフラが完成し、運用を開始した。

【成果】

- 「夕食サポート」は3家族10食程度を想定していたが、要望が多かったため、1月は4家族18食まで拡げて受けた。さらに3月には11家族まで拡げ、目標の月80食を大きく越える支援を行った。
- 「レシピのない料理教室」の募集は、告知から数日で定員を超える申し込みがあり、子育て家庭支援のニーズや調理への関心の高さは予想以上であった。
- 本事業が対象とするひとり親などの支援を行っている母子生活支援施設との連携により、サポートを必要とする7家族に新たに会員登録いただいた。

課題と対応

- 「夕食サポート」は、最長3か月のサポート期間内に利用者が自走し卒業していくことで、必要性の高い別の希望者に席を譲る方式をうまく機能させた。会員の状況変化を常時把握するため、適宜ヒアリングを行っていく。
- 利用者には、支援側が気付いていない悩みがあることが分かってきた。例えば、多子家庭には子連れでの買い物が難しいといった悩みがあるため、配達担当スタッフの空き時間を買利物サポートに充てるなど本事業の中でできる工夫をしていきたい。

団体にとっての効果

- 本事業を担う人材として「夕食サポート」4名、「おはなしルーム」1名、全体管理1名をパートタイマーとして有期雇用した。未経験者には訓練を実施するなど法人内の実施体制を整えられた。
- 「私のような条件でもサポートしてもらえる」「急な傷病時に助かる」など支援への感謝の声を多くいただいた。
- 拠点の備品を整備し「おはなしルーム」を開催できる落ち着いた雰囲気の空間ができた。参加者からも「気軽に普段言えないことをここで話せてよかった」などの感想をいただいている。

23 特定非営利活動法人 バディチーム



所在地：東京都新宿区下宮比町2-28 URL：https://buddy-team.com/

居場所型との連携による 家庭訪問型食支援等の協働実践

東京都の「子ども食堂」「フードバンク」「こども宅食」「居場所」等の皆さまへ

一緒に届けませんか？
「家庭訪問型支援」とつながるサポート！

こんにちは。NPO法人バディチームです。
私たちは、都内13区で17年間家庭訪問型子育て支援を行ってきた団体です。

このたびバディチームでは「令和7年度子供が輝く東京・応援事業」の助成を受け東京都内にある「子ども食堂」「フードバンク」「こども宅食」「居場所」等の皆さんと連携して支援を行うしくみづくりに取り組んでいくことになりました。

一緒にできること

- ・訪問型食支援の情報提供
※チラシ送付、説明会の開催
- ・気になるご家庭への個別相談
※公的支援に繋がりたいなど
- ・心配なご家庭への訪問型支援
※バディチームが行う
※一緒に訪問支援を行う

実施期間

令和7年1月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 296,000円
(賃金、消耗品費)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- 一人親家庭や経済的困窮などの背景があり、こども食堂、フードバンク、子どもの居場所（以下、居場所型）などを利用しながらも、様々な大変さや困りごとを抱えている子育て家庭に対して、訪問して食支援等（以下、家庭訪問型食支援等）を行う。
- 「非専門職による要支援家庭への訪問型支援」を複数地区で17年間実施している経験を活かして、家庭訪問型食支援等の実践を都内で拡充するためのしくみづくりを行う。
- 家庭訪問型食支援等の必要性や効果が広く認知され、より多くの家庭が支援を受けられるようになること、居場所型との連携が強化され、協働支援の体制が整い、実践から得られた知見を各自治体へフィードバックすることで、より効果的な子ども・家庭支援政策の策定に寄与することを目的とする。

【事業内容】

- チラシの作成と配布
現場支援の実際の周知とセミナーの案内を兼ねたチ

ラシを作成し、居場所型を主な対象に配布する。

- セミナーの開催
これまでの実践をもとに、家庭訪問型食支援等の概要や現場支援の実際、実践を想定した内容のセミナーを開催する。
 - 個別ケースに関する相談受付
チラシ、セミナー、ホームページなどの広報をきっかけとして、居場所型より個別ケースの相談を受け、①様々な社会資源につなぐ、②協働で家庭の支援にあたる。
 - 協働実践（現場研修）
対象家庭に対して、居場所型のメンバーとともに家庭訪問型食支援等の計画を立て、支援を行う。
 - 報告レポートの作成と配布
本事業で行ったセミナー、相談対応、協働実践に関するレポートを作成し、居場所型、子ども家庭支援センター、社会福祉協議会などに配布する。提言資料としても活用する。
- ※家庭訪問型食支援等は、家庭のニーズに応じて食以外の家事（掃除や片付け）、送迎、学習支援も実施する。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- ①チラシの作成と配布数 1,000ヶ所
(こども食堂約830+フードバンク+子どもの居場所)
- ②セミナー参加者数 100名
(オンライン参加者数+アーカイブ視聴回数)
- ③セミナー参加後のアンケート結果
理解度 5段階評価4以上80%
- ④居場所型からの相談対応件数 20件
- ⑤連携して支援に取り組む協働実践団体数 5団体以上
- ⑥報告レポートの配布数 1,200ヶ所
(こども食堂約830+フードバンク+子どもの居場所
+子ども家庭支援センター75+社会福祉協議会など)

【事業計画】

- 令和7年3～6月
準備(セミナー企画・出演者調整・チラシ案、配布団体の検討など)
- 令和7年1～7月
 - 居場所型からの相談対応 5件
 - 協働実践団体との連携 1件
- 令和7年6月
チラシの作成と配布
- 令和7年7月
セミナーの開催
- 令和7年8月～令和8年3月
 - 居場所型からの相談対応 15件
 - 協働実践団体との連携 4件
- 令和8年2～3月
報告レポートの作成と配布

実施状況・成果

【実施状況】

- 個別ケースに関する相談
 - 広報内容の検討(1月)
 - 関連団体等への案内開始(2月)
 - 相談対応件数:2件
- 協働実践団体との連携
 - 協働実践団体:3団体
過去に関連のあった2団体(A:フードバンク、B:子ども宅食)、問合せのあった1団体(C:子ども家庭支援センターからの紹介)と、個別ケースに関して協働実践することを決定し、各団体と連絡会を実施し協議を重ねた。(1～3月)



各団体との連絡会

【成果】

- 相談対応
相談を受け社会資源に繋げる対応を2件実施した。
- 協働実践団体との連携
3団体と協働実践の合意を得た。過去に関係のあった団体だけではなく、新たな団体へもアプローチを開始した。
- 人材確保への動き
地域のボランティアセンターに協力を依頼し、人材確保の取り組みを開始した。

課題と対応

- 団体Aでは、代表者の関心が高く相談ケースは多いことが予想されるものの、団体内で現場支援者として動けるスタッフ(ボランティア)が不足している。それ以外の団体についても、今後活動を継続するための人員を確保することが課題となると想定される。
- 団体Aについては、地域のボランティアセンターへ協力を依頼して人員確保を図るとともに、それ以外の団体についても、各団体が所在する地域の人員募集に係る協力機関とも連携していく。

団体にとっての効果

- ネットワークの拡大
新規団体とも協働することで、地域における支援ネットワークが広がった。
- 家庭訪問型支援の認知拡大
広報活動によって、家庭訪問型支援の必要性や効果について理解が深まる素地をつくった。
- 今後の課題認識と対応力向上
支援を継続するためには人材確保が重要課題であることを認識し、地域の機関との連携強化という具体的な対応策を打ち出した。

24 特定非営利活動法人 あなたの SOGIE



所在地：東京都墨田区京島3-49-17 URL：https://anatanosogie.or.jp

大人の孤立も子どもの孤立もうまないための 連携づくり～いろいろな人たちのフリースクール～

4つの特徴

1 専門家による カウンセリング

公認心理師などの専門家がフリースクールの利用者さんや保護者さんへのカウンセリングをおこないます。
※カウンセリングは任意で受けることができます。

フリースクール以外の利用者さんもカウンセリングを受けることが可能です。
※カウンセリングは事前予約です。

2 地域との連携

多様な団体と連携を広めるために、地域のプラットフォームとして活動をしています。
定期的なミニ講座、保護者会、交流会、ワークショップなどを開催しています。
詳しくはホームページにて

3 子どもも大人も 過ごせる居場所

子どもが利用するフリースクールと同じ空間に、未就学児や成人も利用できる「ふれあい学習空間」を併設しています。

※フリースクール利用者さんの安全を確保するため、「ふれあい学習空間」の利用規約に承諾される方が利用対象者となります。

4 マイノリティ性のある人へのサポート

「起立性調節障害がいて、横になれるスペースがほしい」「時々一人で落ち着ける場所があったらいいな」「ズボン以外の服装で過ごしたい」など、子どもの悩みや思いを拾い上げてサポートします。



実施期間

令和6年12月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 2,185,000円
(備品等購入費、ホームページ開設費、旅費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料、委託費)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- ここ数年、教育現場においてLGBTQに関する教育が児童・生徒、教員になされる機会が増え、理解や実践につながりつつある。一方で、家庭や地域での理解はまだ広がっていないのが現状で、LGBTQ当事者の子どもを取り巻く環境が改善されているとは言い難い。
- これまでの支援事業を通して、多岐にわたる課題を解決するために継続的に利用できる拠点の必要性を強く感じている。そのため、LGBTQや学習障害など社会的マイノリティ当事者とその家族のための居場所を墨田区北部につくる。
- 同時に情報発信や交流機会を設け、家庭も地域も互いに学び、頼りながら子育てができる社会基盤のモデルへとつなげていく。家庭内での子どもの孤立、地域内での世帯の孤立を改善・防止し、継続性の高い連携を横断的に構築する。

【事業内容】

- 誰でもフリースクール「ビーユー～be you～」学習支援およびLGBTQや発達障害などのマイノリティ児童・生徒への支援を行う
対象：小学校1年生～高校3年生

2回まで無料体験可（入会后月謝制）、定員20名

- 誰でもスペース（交流スペース）
書籍コーナーを設け、年齢に関係なく誰もが学び合い交流できる空間を常設し、当事者の居場所づくりおよび地域連携のための活動拠点とする。
- 定例交流会
LGBTQをはじめ様々なマイノリティに関する知識や情報を参加者同士で共有し、新たな連携へとつなげる。
- 関係機関の紹介および同行支援
関係機関のパンフレットやチラシを設置し、都内の情報を利用者へ提供。必要に応じて各機関への紹介や同行支援を行う。

成果目標・事業計画

【成果目標】

<指標>

- ①フリースクールの実働日数、参加人数（体験する子どもの延べ数/本入会する子どもの実数）
- ②交流スペースの実働日数、利用人数（延べ数）
- ③定例交流会の開催数、参加人数（延べ数）
- ④対応相談に対する改善率（改善の見られた件数/課題改善を必要とする相談数）

<目標値>

○令和6年度

- ①実働31日、体験参加40名、うち本入会2名
- ②実働31日、利用155名
- ③開催1回、参加25名
- ④80% (40件/50件)

○令和7年度

- ①実働145日、参加580名、うち本入会10名
- ②実働145日、利用1,450名
- ③開催4回、参加100名
- ④92% (60件/65件)

【事業計画】

○令和6年12月～令和7年1月第2週

- 事業実施拠点の契約 (墨田区内)
- 備品整備
- 職員およびボランティア研修
- 関係各所への挨拶
- チラシ作成および配布
- ホームページ開設

○令和7年1月第3週～令和8年3月

- フリースクール 水・木・金曜日8時半～15時
- 誰でもスペース 水・木・金曜日10時～15時
- 定例交流会 3か月に1回土または日曜日13時～17時
- 関係機関の紹介および同行支援 (随時)

実施状況・成果

【実施状況】

○誰でもフリースクール「ビーユー～be you～」

- 令和6年11月～運営スタッフ採用 (10名)
- 令和7年1月～スタッフ研修会3回、スタッフミーティング3回実施
- 令和7年3月開校 (3/12～)
実働日数：8日
入会前相談：8件 (相談者実数4名)
体験実施：1名

○誰でもスペース「ふれあい学習空間」

- 令和7年3月利用開始 (3/12～)
実働日数：8日
利用者数：延べ37名

○定例交流会

- 3/29すみだ共生社会推進センターにて実施
参加人数：36名

○関係機関の紹介及び同行支援

- 関係機関紹介数：7件

○広報と周知

- ホームページを作成し、令和7年2月より公開
- フリースクール入会規約、誰でもスペース利用規約、入会前アンケート、名刺を作成
- リーフレットと挨拶状を関係各所に郵送
- 墨田区教育委員会や企業、商店街店舗などを訪問し周知活動を実施

【子供が輝く東京応援事業】【墨田区後援】

be you

「心理師さんってどんな人？」
～心理師によるカウンセリング体験談～

3月29日(土)
13:30スタート
場所：すみだ共生社会推進センター(すみなか)3階第2会議室
参加無料

お子さまと一緒にでも
おひとりでも
初めての方も

ハーブティーやコーヒー、ジュースやお茶を飲みながら、公認心理師や不登校訪問支援カウンセラーを囲んで、こころのことを一緒に話してみませんか？

・悩んだとき、他の人はどう解決しているのかな
・何となく行ってみようかな
・自分のこころのことを考えてみようかな
・こんなことで相談していいのかな
職場、学校、子育て、ジェンダー、人間関係など・・・
きっかけは人それぞれ
自分のことを話しても話さなくても、一緒に過ごしませんか？

フリースクールHP
お申し込みはこちら

途中入退室OKです(事前申請ですが、当日空きがあれば参加できます)
主催：NPO法人あなたのSOGIE

【成果】

○対応相談に対する改善率

事業全体における相談件数18件、相談者実数12名、改善率は91%であった。相談者は、フリースクール関連は4名で、うち3名の相談支援を継続中。一方、誰でもスペース関連は8名中8名の改善を確認した。

課題と対応

○拠点となる事業所の工事遅延の影響で、準備活動が中心となった。その中で、スタッフの採用を進め、研修会やミーティングを行い、フリースクールに関する知識と社会的マイノリティの子どもへの寄り添い方を学び合うことができた。

○定期交流会の開催に向け、運営スタッフの役割決めや想定されるケースワークをもとにワークショップを行うなどスタッフ間の連携を強化した。また、危機管理面ではアレルギー対策、緊急時対応などを実践的に学び、滞りない運営のための準備を進めた。

団体にとっての効果

- 運営スタッフの多くがフリースクール事業未経験者だが、同行支援事業を通して不登校児童・生徒の実態を知ること、より身近な課題として事業参加の意義を強く感じてくれた。

- 拠点周辺を訪問し周知活動を行ったことで、協力表明や不登校児童・生徒の紹介につながり、今後の事業運営に安定性をもたらす連携づくりができた。

25 特定非営利活動法人 BOON



所在地：東京都豊島区南大塚1-60-20-203

URL：(ホームページ) <https://www.npo-boon.org/>

(SUC-Social Design Unconventional Creation) <https://s-u-c.org>

未来のソーシャルデザイナーを育てる ～ボランティア社会に向けた取組～



実施期間

令和6年12月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 1,628,000円
(備品等購入費、賃金、消耗品費、
印刷製本費、委託費)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- ソーシャルデザインとは、社会課題の解決を出発点に一人ひとりがより良い社会を思い描き、今の自分にできることを考え行動し、それらが重なって新しい社会を築いていくという社会問題を捉えるアプローチの1つ。本事業ではこのアプローチの実践者をソーシャルデザイナーと呼ぶ。
- ソーシャルデザイン教育を基本方針に、新たな時代を生き抜く子どもたちに社会貢献の機会を提供し、共に社会を支え・創ることで、誰もが安心して暮らせるボランティア社会を目指す。

【事業内容】

- ソーシャルデザイナーを育てる
 - 子ども向けプログラム
小中高生を対象に講座とワークショップを実施。社会貢献活動や社会課題への理解を深める。
 - ボランティア活動
子どもから大人までを対象に子ども向けプログラムで企画した活動を実施。子どもたちが、ロールモデルとなる人と共に参加することで、活動を継続する人材へと成長していくことを促す。

○ボランティア人材の育成

●人材育成研修

ボランティア活動へ高い関心を持つ学生（18歳以上）および社会人を対象に子どものロールモデルとなる人材を育成する。

●スペシャリスト育成

研修・制度、仕組みの構築、テキストの作成、講師の選定など準備を進める。

○専用ホームページの開設

プログラム参加者向けにお知らせやプログラム日程、会員ページなどのコンテンツを掲載する。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- ボランティア活動参加率の向上
プログラム参加者の80%が1年以内に1回以上のボランティア活動に参加する。
- 自己有用感の向上
プログラム参加後、参加者の80%以上が自己有用感尺度3.5以上を目指す。
- 子どもの社会課題への関心度の向上
プログラム参加後、参加者の70%以上が社会問題に対して高い関心を示す。

- 保護者の満足度
事業終了後のアンケートで、保護者の満足度が90%以上であることを目指す。

【事業計画】

- 子ども向けプログラム
 - 令和6年12月～ プログラム検討、会場決定
 - 令和7年8月～ プログラム実施（30名×2日 計60名）
- ボランティア活動
 - 令和6年12月～ 募集チラシ作成、社会人・学生対象に募集開始
 - 令和7年8月～ 子ども対象に募集開始
 - 令和7年12月～ 活動実施
- ボランティア人材育成研修
 - 令和6年12月～ プログラム検討
 - 令和7年5～7月 研修実施（計40名）
- 専用ホームページ開設
 - 令和6年12月～ 作成、コンテンツ適宜追加

実施状況・成果

【実施状況】

令和7年度プログラム実施に向け、ソーシャルデザインの定義と事業実施内容について専門家とミーティングを行い、検討を重ねた。

- ソーシャルデザイナーを育てる
 - 子ども向けプログラム（DAY1、2 令和7年9月実施予定）
防災・障害をテーマに講座やワークを行う。
 - ボランティア活動（DAY3 令和8年1月実施予定）
子どもたちが大人のボランティアと共に啓発活動およびイベント運営の手伝いを行う。
- ボランティア人材の育成
 - 人材育成研修プログラム
令和7年度の実施に向け講師とスケジュールを調整した。
 - スペシャリスト育成
独自のカリキュラム作成に向け目標および方針を確認した。
- 専用ホームページの開設
令和7年6月公開に向けて準備中

【成果】

実施プログラムの内容を構築するにあたり、ソーシャルデザインの定義を明確化した。

- 本事業におけるソーシャルデザインとは「目的設定・計画策定・仕様表現からなる一連のプロセス」であり、社会のルールや仕組み、アイデアを創出するプロセスともいえる。現代の「共生社会」を維持し、全ての人々が共生できる道筋を考え、より良い社会を思い描くことである。
- ボランティアはもちろん、社会を変えるために行動

SUC Social Design Unconventional Creation

やってみよう！が、未来をつくる。

社会を知って、自分を広げよう。

SUCは、皆さんが社会の課題に目を向け、知って、考えて、行動できる、「社会のデザイナー」として育つためのプログラムです。第1回の今回は、防災・避難生活をテーマに、ソーシャルデザインについて学んでいきます。ソーシャルデザインによりよい社会を目指して、新しいアイデアを生み出すこと！1日はワークショップ！2日は啓発イベントを皆さんが運営します！学びとボランティア活動を行き来するプログラム、興味のある方はぜひ参加してください！

開催日時		
1日目	2日目	
① 9月13日(土) 14時～16時30分 小学生	② 9月14日(日) 14時～17時30分 中学生/高校生	③ 1月6日(火) 10時30分～17時 小学生/中学生/高校生

※小学生は①③、中学生・高校生は②③の両方に参加できる方が対象です。
募集期間：令和7年6月1日～7月31日

SUC | **NOBLE/ABOON**
問い合わせ
東京都豊島区南大塚1-60-20-203
TEL: 03-2948-8001(平日)
MAIL: info@suc-hoon.org
URL: https://s-uc.org

東京都福祉保健財団「子供が輝く東京・応援事業」助成金事業
本イベントは豊島区教育委員会の後援を受けています。

できる人がソーシャルデザインの実践者、すなわちソーシャルデザイナーである。アイデアを創出することが社会貢献につながる、あるいは社会貢献そのものになる。

課題と対応

- ソーシャルデザインの実践においては、ボランティアそのものを体験するというより、より良い社会・街にするために何ができるかを子どもたち自身がテーマを決め、考える内容としたい。ソーシャルデザインが社会貢献につながることを実感、体感してもらえるよう、子どもたちのアイデアをどのように活かしていくか、提案できる場や機会について検討を重ねていく。
- 事業周知において、つながりのある私立学校や教育系の特定非営利活動法人にチラシの配布を依頼するほか、公立の小中学校でも配布できるよう教育委員会の後援取得に向けて働きかけを行った。

団体にとっての効果

- 事業実施に向けて専門家とミーティングを重ねる中で、ソーシャルデザインの定義について考えを深め、団体として再認識できた。
- 事業の目標や軸をより明確にすることで「子どもたちが社会の課題に目を向け、自分たちができることを考え、行動に移す力を育てる」ためにどのような機会を提供するかなど具体的に検討を進めることができた。

26 一般社団法人 おおたクリエイティブタウンセンター



所在地：東京都大田区中央7-15-18 URL：<https://oct-c.com/>

多世代交流、子どもたちの居場所機能を併せ持つ チャレンジスペースの運営「オープンらぼプロジェクト」



オープンらぼプロジェクトURL
<https://oct-c.com/open-lab/>

実施期間

令和6年11月1日～令和8年1月31日

助成額

令和6年度： 1,657,000円
(ホームページ開設費、賃金)

事業概要・事業内容

【事業概要】

○モノづくりをテーマにしたまちづくりに取り組んできた「モノづくりのまちの地域交流拠点 くりらぼ多摩川」での活動を他地域へ拡張する。

モノづくり文化の裾野を上げると同時に、多世代交流や子どもたちの居場所機能を併せ持つチャレンジスペースの運営「オープンらぼプロジェクト」を区内複数箇所で開催する。

○子どもを取り巻く諸課題を交流・対話を通して解決すること、子どもを中心に据えたまちの活性化の方向性を示し、次世代を巻き込む持続的な取組へと成長させること、地域のプレイヤー（以下、くりらぼメイト）がサポート人材として活躍することを目的とする。

【事業内容】

○場所：大田区内各所（モノづくり関連拠点・廃業した工場・閉店した店舗・空き家など普段使われていない場所や、営業中店舗のアイドルタイム利用や施設の一部を想定）

○対象：未就学児（保護者同伴）～小学校6年生

○テーマ：「つくる」「みせる」「実験する」

○長年チャレンジスペースの運営に携わってきたくりらぼメイトによる工場廃材の自由工作、対話型アトリエ、ものづくり相談、アイテムづくりのワークショップなど、ふらっと誰でも気軽に立ち寄れる取組を実施する。

○地域の大人が見守る中、つくること、遊ぶこと、交流することを通して、子どもたちの自主性、社会性、これからの未来を生き抜く力を高め、チャレンジスペースが自分らしく生きていくための心の安全地帯として機能することを目指す。

成果目標・事業計画

【成果目標】

○来訪者（子ども）の満足度
4段階評価で3以上 80%

○コンテンツ提供者（運営者）の継続意欲
5段階評価で4以上 60%

○出張実施場所の開拓 4か所

○実施日数 50日

○来場者数 約1,000名

○運営者の人数 新規登録3名

【事業計画】

- 令和6年11月～令和7年4月
 - 会場の調整と確定、運営者調整、告知先調整
 - WEBサイト構築、告知物のデザイン準備
- 令和7年3月～6月
 - 会場提供者と打合せ、運営スタッフ研修
- 令和7年5月
 - 7、8月実施分広報物の制作、告知開始
- 令和7年6月
 - 会場設備準備（出張用備品のレンタル調整など）
- 令和7年7、8月
 - プログラム実施（20日実施、来場者数400名）
 - 9、10月実施分広報物の制作、告知開始
- 令和7年9、10月
 - プログラム実施（20日実施、来場者数400名）
 - 11月実施分広報物の制作、告知開始
- 令和7年11月
 - プログラム実施（10日実施、来場者数200名）
- 令和7年12月～令和8年1月
 - プロジェクトの効果検証、関係者へヒアリング、大田区外での実施に向けて検討

実施状況・成果

【実施状況】

- くりらぼメイトの調整
 - 事業内容の説明、意見交換（12月）
 - 他会場展開に向けて活動ルールの検討・内部ヒアリング（12月）
 - ルールの更新版作成・展開（1月）
 - 新規運営参加希望者へ随時説明（1月～）
- 会場調整
 - 地域不動産へ相談（12月）
 - 製造業者へ相談。随時、企業へ直接訪問および相談し、実施会場を確定した。（1～3月）
- 連携団体への協力依頼
 - 依頼内容：会場の情報提供、運営メンバー・当日運営スタッフの紹介、広報協力など
 - 依頼先：大田区内の観光協会・事業協同組合、大田区教育委員会・鉄道都市づくり課、官民連携によるまちづくり会議など
- 広報
 - WEBサイト構築（1～3月）
 - ロゴ・キービジュアル検討（3月）
 - 紙媒体制作物の検討（3月～）
 - SNS方針検討、情報収集の仕組み検討（3月）
- 区外への横展開・オープンソース化

ミーティングやディスカッション時に、周知や意見交換を行った。制作物についても、その方針をもとに制作検討を進めた。

【成果】

- 広報物の制作のため、くりらぼメイトを含む現在の運営メンバーによるプロジェクトのディスカッションを行った。日頃意見交換、情報共有しきれていない部分についても深く話すことができ、同じ思いを持っていることが分かりチームの結束も強まった。
- ワイヤーフレーム（WEBサイトの構成）を検討するために、どのような情報を来場者に伝えたいか、情報発信の導線設計、自分たちの強み（実施者の魅力・コンテンツの充実度）と強化すべき部分（言語化と、イメージデータのラインナップ）が明確になった。

課題と対応

- 当事業以外で本業があるメンバーが大半のため、情報共有や意思疎通にタイムラグがある。定期ミーティングや、作業リストの共有などで活動リズムを再構築する。
- 助成終了後、継続実施（活動の定着化）や横展開に向けての資金繰りが課題。方針に沿った取組を早期に具体化し、助成金・クラウドファンディング・企業協賛（タイアップ）など申請や提案ができるよう準備を進める。

団体にとっての効果

- 活動自体のコンセプト整理・可視化のためのディスカッションで、アウトターブランディング*1だけでなく、インナーブランディング*2が進んだ。
- 拡張の試みを通して、これまでの活動に共感・利害の一致で、運営だけでなくサポーターの立場で関わるメンバーが増加した。
- スタッフの増強の効果は大きく、これまでの属人的な業務も、引き継ぎのための整理や効率化に取り組むことができ、人材育成など次の展開を検討する動きになった。

*1 自社のブランドや商品、サービスについてよいイメージを社外に定着させる取組

*2 自社の企業理念やブランドの価値などを企業内に深く浸透させる取組

27 特定非営利活動法人 日本教育再興連盟



所在地：東京都渋谷区代々木5-62-1 URL：https://kyouikusaikou.jp/

ギフテッド傾向があり学校に馴染みづらい 中高生に向けた居場所づくりと学びの支援活動



実施期間

令和6年12月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 2,961,000円
(賃金、報償費、消耗品費、役員費、使用料・賃借料、委託費)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- 当団体はギフテッド傾向により生きづらさを感じている子どもとその保護者を対象に支援活動を展開しているが、今回の事業では、特に中高生を中心に思春期前後の子どもへの支援に力を入れる。
 - 子どもたちが「自分にも仲間がいる」と実感できるよう対面での交流を重視。新たに拠点を設け、自分の興味関心やありのままの姿を受け入れてくれる居場所や同世代との出会いを提供し、人生を前向きに歩んでいけるようサポートする。
 - さらに、孤独感が和らぎ、学びへの意欲を持てるようになった子どもには、オンライン・オフラインなど多様な形で「学びの場」を提供し、成長を支援していく。
- ※ギフテッドは診断名などではなく明確な定義も存在しないため、当団体でも参加にあたり条件やIQなどの線引きは設けていない。ギフテッド傾向があり、子どもや保護者が周りの同世代との違いにより孤独や悩みを感じている場合、支援の対象として広く受け入れている。

【事業内容】

- フリースペースの運営
ふらっと来て少しおしゃべりや宿題をして帰るといった気軽な利用を想定。
実施日：3日/週、4時間半/日
利用人数：6名程度
- 参加者の興味関心に沿った交流イベントの開催
哲学対話やボードゲーム大会、創作ワークショップなど。参加者にもアイデアを出してもらいながら企画・実施する。
開催：月1回程度、5～10名/回
- 探究学習のサポート
興味のある分野に関する学びを深めていけるよう、テーマを決め、探究、実践し成果を発表するまでの流れを大学生・社会人メンターがサポートする。
頻度：希望に合わせて臨機応変に対応

成果目標・事業計画

【成果目標】

<指標>

- ①拠点の平均月間来訪者数（本格オープン以降）

- ②拠点の利用を通して気持ちが前向きに変化した10代の子ども・若者の割合（参加終了時または事業終了時に取得するアンケートにて調査）

<目標値>

- ①延べ72名/月
②90%（単発利用者は除く）

【事業計画】

- 令和6年12月～令和7年1月
- 活動拠点となる物件の契約、開設準備
 - 拠点のホームページ作成、告知開始
- 令和7年2月
- 拠点プレオープン（1日/週）
- 令和7年3月
- 利用者アンケートおよび事業モニタリング実施
- 令和7年4月～
- 拠点での活動を本格的に開始（フリースペース運営、交流イベント開催、探究学習サポート）
- 令和8年1～3月
- 利用者アンケートなどの分析、事業の効果検証

実施状況・成果

【実施状況】

- フリースペースの運営
- 令和6年12月 拠点となる物件の選定と契約
 - 令和7年1月 利用対象家庭にニーズ調査を実施
 - 令和7年2～3月 プレオープン
- 公式LINE（法人主催イベント参加者が任意で登録）にて周知および募集を行った。
- 実施日数：11日
- 利用者数：延べ56名（実人数18名）
- 居場所スタッフとして大学生6名を採用し、育成した。
 - 事業モニタリングとして、スタッフ全体ミーティングを実施し、プレオープン期間の振り返りを行った。
- スタッフの4月以降の継続参画希望：100%
- 関係機関との連携
- 1～2月に居場所設置場所である渋谷区教育委員会、東京都教育庁を訪問し事業を紹介した。

【成果】

- プレオープン利用者を対象に利用後アンケートを実施した。
- アンケート回答結果
- とても楽しかった/まあ楽しかった：95.3%
- 今後もこの居場所を利用したい：100%
- 4月の本格オープン以降も利用を希望する12名より入会申請を受けた。



居場所での活動風景

課題と対応

- 1月にニーズ調査を実施し、開館日やコンテンツについて意見を募ったところ、子どもたちの多くが、現在不登校の状況にあることから、日中（13時～16時頃）の利用を希望していることが分かった。そのため、プレオープンでの試行を経て、開館時間を当初計画していた16時～19時から13時半～18時に変更することとした。
- 裏方を担う運営スタッフ、実際に子どもと関わる支援スタッフともに安定して活動できる人員が必要であることから、大学生スタッフに加えて、活動予定を読みやすい社会人スタッフの積極採用を行った。

団体にとっての効果

- 今回の事業によって、これまでオンライン中心に展開してきたギフテッドの子どもの居場所づくりの活動を常設型の対面支援へと拡張することができ、拠点があることによって広がる活動や支援の幅の大きさを実感した。本格オープンから1ヶ月が経つ頃から、利用者同士の仲も深まり、利用者側から「この場所でこんなことをしてみたい」といった希望も出てくるようになった。
- 今後は、拠点のある渋谷区や東京都との連携も模索しながら、より多くの子どもたちに利用してもらえるよう広報にも努めていきたい。

28 社会福祉法人 清遊の家

所在地：東京都葛飾区西新小岩3-37-27 URL：https://www.seiyunoie.or.jp/

個性や多様性が尊重され、安心して過ごせる居場所づくり（就学児童対象）



実施期間

令和6年7月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 893,000円
(備品等購入費、賃金、消耗品費)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- 主に学童保育に在籍していない就学児童（以下、児童）を対象に、法人が運営する認可保育所内の地域交流スペースを継続的に開放することで、児童が安心してほっと一息つける場、人と出会い交流を図ることのできる場をつくる。
- 児童の個性や多様性が尊重され、自分らしく安心して過ごすことができる場合は、保護者の安心にもつながる。また、家庭や学校とは違う安心の場は、家庭環境や人間関係の悩みを抱えながらも他者に伝えられずにいる児童にとって、相談できる場にもなり得る。家庭や学校に留まらず、子どもの育ちを見守る人や場所を増やすことで豊かな育ちにつなげていく。

【事業内容】

- 日時：月～金曜日、15時半～18時
- 定員：10名程度
※状況により定員を増やすことも検討
- 内容：宿題など学習ができるスペースを提供する。玩具や書籍を整え、思い思いに過ごすことができる環境づくりを行う。その他、利用者ニーズと運営の課題を見出し、都度環境の設定や内容を整えていく。
- 利用方法：利用料は無料で実施予定。登録制とし、

開放時間帯は自由に入出入り可能。登録時に保護者の連絡先なども把握し、万が一の体調不良や怪我などに備える。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 開放日数 200日程度/年
(祝日及び三季休業を除く月～金曜日)
- 利用人数 10名程度/日、200名程度/月

【事業計画】

- 令和6年7月
 - 在園家庭に向けたアンケートの実施、集計
 - 一斉配布以降はアンケートボックスを設置し、随時受付
- 令和6年8月
 - プレオープンに向けた児童募集ポスターの掲示
掲示場所：近隣小学校、通学区域の施設（病院・スーパー・法人が運営する学童保育施設）
- 令和6年9～10月
 - プレオープン予約受付（9月中旬まで）
 - プレオープン実施（9/24～10/11）
 - 利用児童および保護者に向けたアンケートの実施。内容を精査し本格始動につなげる。

- 令和6年10～11月
 - プレオープンの振り返りを行い、利用者ニーズと運営課題を抽出。改善案を挙げる。
 - 本格始動に向けて改善策を講じ、環境を整える。
- 令和6年12月～
 - 居場所の運営を本格始動する。

実施状況・成果

【実施状況】

- 周知、広報
 - ポスターを作成し、法人が運営する学童保育クラブ2施設、認可保育所の嘱託医2院（歯科、内科）、近隣スーパーに掲示を依頼した。また、認可保育所の園舎玄関および地域向け掲示スペースにて案内した。
 - 在園家庭に向けて案内メールを配信した。
 - 葛飾区や近隣小学校に事業内容を伝えた。
- プレオープン
 - 期間：1/27～1/31、15時半～18時
 - 利用児童数：2名（延べ2名）
 - 利用方法：利用料無料。緊急連絡先の把握、利用時の注意事項などの確認を目的とした登録後、予約制での利用とした。
 - 傷害・賠償保険料の財源に関して自治体との協議に時間を要し、プレオープンおよび本格オープンの実施が後ろ倒しになった。
- プレオープンの振り返りと課題抽出、環境改善
 - 本格実施に向けた最終調整を行った。（2/1～2/11）
- 本格オープン
 - 期間：2/12～3/24、15時半～18時
 - 利用児童数：4名（延べ27名）
 - 利用方法：プレオープンと同様。

【成果】

- 日常の放課後の過ごし方について利用児童に尋ねると、学童保育クラブを利用していない児童も利用できる放課後のプログラムはあるが、制限が多く窮屈であるといった話があった。一方で、当事業の居場所では、児童がゆったりとした心もちで好きなことをして過ごすことができた。
- 居場所の選択肢が増えることによって、児童が自ら過ごし方を選ぶことができた。
- 学校や家庭ではできない遊びなど、やりたいことの選択肢が増え様々な経験ができた。
- 保護者から、こうした居場所は必要な場所であるとコメントをいただいた。
- 家庭で過ごすことを余儀なくされている子どもの居場所ができることで、保護者の安心につながった。

課題と対応

- 事業の周知方法が課題。ポスターの掲示依頼の範囲を広げ、より多くの方へ周知していく。

ひのか保育園で
小学生の放課後の居場所
“かしの木”
はじめました

※利用には、
事前の登録が
必要です

場所 ⇒ ひのか保育園・地域交流スペース
開所日 ⇒ 月曜日～金曜日 ※祝祭日・三季休業・
年末年始を除く
時間 ⇒ 15時30分～18時00分
定員 ⇒ 10名程度
対象 ⇒ 学童保育クラブに在籍していない小学生
料金 ⇒ 無料

【連絡先】：ひのか保育園 小学生の居場所専用ダイヤル
⇒080-2060-1060 ※お問い合わせは、こちら
受付時間 までお願いします
⇒月曜日～金曜日 10時00分～18時15分

【小学生の放課後の居場所“かしの木”
についての詳細はこちら⇒



- 登録・予約方法の改善。対応時間の拡大などを検討し、より利用しやすくなるように工夫していく。
- 学習支援ボランティアの募集。本格オープン後、状況を把握しながら地域に向けてボランティアを募集していく。
- 法人が負担している児童の傷害・賠償保険料や、今後おやつを提供する場合に発生する経費の財源確保、人件費の捻出が課題。当事業が対象となる助成金の獲得を目指すとともに、教材などについては、在園家庭や地域に向けて、家庭で使わなくなった教材などの提供を依頼していく。

団体にとっての効果

- 在園家庭以外の地域住民や施設とのつながりを深めることができた。

29 特定非営利活動法人 ヒューマンケア

所在地：東京都福生市北田園1-5-9

URL：(ホームページ) <http://www.humancare.or.jp/>

(フリースクールかかし) <https://kakashi-fussa.org/>

地域で子育て・親育ち事業

「あるものを活かす」～できる人が・できるときに・できることを～(不登校児の親子支援、シニアの生きがいの創出)



実施期間

令和6年12月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 0円

事業概要・事業内容

【事業概要】

- 近年、不登校児が増加傾向にあり、法人が運営するこども食堂でもソーシャルワーカーの紹介により不登校児と親が利用する場面などが見られるが、福生市にはフリースクールがない。
- そこで、不登校児童・生徒および保護者を対象に、食や生活面のサポート、相談援助機能をもつ居場所としてのフリースクール事業を実施する。
- 本事業では、生まれ育った環境や個人の特性のため学習の機会が阻まれている子どもたちに、無料で学習指導や体験活動などの学びの機会を提供し、自分の将来に希望を持ち、貧困の連鎖に陥ることなく社会で自立していけるよう支援していく。また、保護者についても、子どもの食事や衣類の提供、子育ての悩みの相談など物心両面のサポートをしていく。

【事業内容】

小中学生の不登校児童・生徒（不登校傾向、学力不振にある児童を含む）および保護者を対象に以下を実施する。

- フリースクール
 - 子どもが自分で週間スケジュールを決める
 - 教科指導や体験活動、習熟度に合わせた指導
 - 子どもの生活相談、学習習慣、子育て相談、進学相談
 - 行政、学校、スクールソーシャルワーカーとの連携
 - 生徒の送迎
 - オンライン学習の実施
- 食事提供（昼食の無料提供）
- 体験活動
 - 福生市内のボランティア団体と連携
 - 子どもの成功体験につながる活動の実施
- 学習支援（習熟度に合わせた無料補習）
- 親の会
 - 子育てに関する講座の開催
 - 親同士の交流と悩みを共有する場づくり
 - 親睦会の実施

成果目標・事業計画

【成果目標】

<指標>

- 年間開催数
- 参加人数（延べ数/毎月参加する子どもの実数）
- 不登校児の出席率

<目標値>

- 令和6年度：22回、110名/5名、60%
- 令和7年度：160回、1,600名/10名、65%

【事業計画】

- 令和6年11～12月
 - 活動拠点施設整備
 - ボランティア募集
 - フリースクール開校周知用チラシ作成、配布
 - ホームページ作成とSNSによるプロモーションの実施
 - オンライン学習環境の構築
 - カリキュラムの作成
 - 教材の整備
 - ボランティア研修会の開催
- 令和7年1～3月
 - フリースクール 火・金曜日10時～15時
 - 体験活動 2回（2月、3月）
 - 親の会 1回（2月、日曜日）
- 令和7年4月～令和8年3月
 - フリースクール 火・水・木・金曜日10時～15時
 - 体験活動 1回/月
 - 学習支援 水曜日17時半～19時半
 - 親の会 3か月に1回 日曜日

実施状況・成果

【実施状況】

- フリースクール
2月より法人内多目的室を整備し、相談業務および体験授業の申込受付を開始した。
- 学習支援（無料勉強会）
実施：5回
参加者：小中学生を中心に延べ30名
- フリースクール広報・普及
 - SNS告知（12月～）
 - チラシ配布（1月～）
チラシ200部を作成し、イベント参加者、教育委員会、行政機関、スクールソーシャルワーカーなどへ配布した。
 - ホームページ公開（2月～）



フリースクール説明会

○イベントなどの開催

- フリースクール説明会（3/15）
不登校児の保護者、教育関係者など18名が参加した。
- 地域イベント・さくら祭り（3/29）
法人事業所内で実施し、近隣小中学校に周知した。

【成果】

- SNSでの事業周知により4件の相談が寄せられた。また、LINEでつながった不登校児を高校受験の作文指導や勉強会参加などにつなげることができた。
- 福生市役所、社会福祉協議会、教育委員会、スクールソーシャルワーカーと連携し情報収集を行った。
- 子育て世帯の親へアプローチできる2つの団体と連携し、子育てセミナー開催時の事業告知や親の勉強会への有資格講師の派遣など協力体制を構築できた。また、元教員などに生徒指導への協力を取り付けたり、こども食堂実施団体と食事提供ボランティア募集について連携したりし、準備を進めた。

課題と対応

- フリースクールの実施を予定していた物件は大幅な改修が必要と分かり、一時的に法人施設にてオープンすることとした。

団体にとっての効果

- 地域貢献による社会的信用の向上
高齢者福祉だけでなく教育領域にも貢献することで、地域社会からの信頼が高まった。
- 法人イメージの向上
教育・福祉という2つの社会的課題に取り組むことで、CSR（企業の社会的責任）を果たす姿勢が明確になり、ブランド価値が向上した。
- 地域ネットワークの拡充
学校や教育委員会、自治体との連携が強まり、地域におけるプレゼンスが高まった。

30 特定非営利活動法人 ケンパ・ラーニング・コミュニティ協会



所在地：東京都三鷹市井の頭2-14-6 URL：https://www.kenpa.jp/

インクルーシブカフェ (こどもの居場所事業)



軽食、ドリンクを提供するキッチンカー

実施期間

令和6年10月1日～令和8年3月31日

助成額

令和6年度： 4,567,000円
(建物改修費、備品等購入費、消耗品費、役務費)

事業概要・事業内容

【事業概要】

- 重症心身障がい児を主な対象とする児童発達支援事業所を併設する認可保育所の園舎および園庭を改修し、キッチンカーなどを活用することで、省スペースで地域の子育て家庭に広く開放されたインクルーシブカフェ（こどもの居場所・コミュニティカフェ）を設置する。これにより障がい児だけでなく、その兄弟姉妹児や、これから妊娠出産をむかえる若者を含むインクルーシブな「こどもの居場所」を地域に創設する。
- 障がいの種別や程度によらず、地域社会で誰でもが互助しあえる関係性を築くには、まずその前提となる出会いの機会が必要である。適切な支援体制のある公開された場を身近に設置することで出会いの機会を創出し、分離されがちな重症心身障がい児の地域での成長と、その家族の子育てを支えていく。

【事業内容】

- 子育て中の保護者へのフォロー
誰もが気軽に立ち寄れるインクルーシブカフェでは個別相談の場を設けるほか、来訪者と言葉を交わす

など日常的なフォローを行うことで、若者、妊産婦や子育て中の保護者との関係性を紡ぐ。

- 体験活動、地域とのつながり
学校休業期間には季節行事や地域の催しへ参加し、送迎や見守りに地域住民、学習支援に地域学生らの参加を積極的に求め、豊かな体験の機会を用意し、多様な人との出会いと興味を培う。
- 安心して過ごせる居間の提供
隣接する認可保育所のホールや園庭も活用した居心地のよいスペースを提供する。個々のこどもの生活の様子に応じて宿題指導や食事提供を行う。
- 健康を支える食事の提供
経管栄養補給をする児童を含め、栄養バランスや空腹を満たすだけでなく、他者とのコミュニケーションを重視した食の体験、時間を提供する。準備や片付け、調理体験を通じて食の自立、食環境の改善機会を用意する。
- 生活支援の提供
障がいの有無に関わらず、持てる機能でできる範囲の健全な生活リズム、あいさつや手伝いなど社会活動の基盤となる生活習慣の獲得を目指す。

成果目標・事業計画

【成果目標】

<指標>

利用児童数、保護者等相談件数

<目標値>

- 令和6年度（令和7年1～3月）
開所日数：40日（3日/週、学校休業期間含む）
児童数：250名（5名/日、学校休業期間10名/日）
相談件数：12件（4件/月）
- 令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）
開所日数：200日（4日/週、学校休業期間含む）
児童数：1,000名（5名/日）
相談件数：48件（4件/月）

【事業計画】

- 令和6年10月
認可保育所施設利用区分変更申請
- 令和6年11月
法人施設改修工事、備品設置
- 令和6年12月
在園児保護者説明会
- 令和7年1月
プレオープン（テスト運用開始）
- 令和7年3月
スプリングスクール開校（春季学校休業中）
- 令和7年4月
ランドオープン

実施状況・成果

【実施状況】

- 園庭外構工事、設備設置
 - 工事完了（3月）
実施計画における見積額が当初計画から大幅に上振れし、契約に時間を要した。着工が遅れ、プレオープン以降のスケジュールを再度計画した。
 - 設備設置完了（3月）
 - キッチンカー購入、保健所手続きなど（2月）
- 周知、広報
 - 在園児保護者向け周知
10/1に電子文書配布により計画および趣旨説明を行い、10/12当該園庭で実施の運動会で再度告知を行った。
 - 地域への周知
周知先：地区町会の掲示板、駅および商店街周辺コミュニティによるLINEオープンチャット、地域のイベントなど



試飲会

●SNS

Facebookの活用と、新たにInstagramを開設し、開業プロセスなども情報開示した。

○内覧説明会の実施（3/8）

参加者：児童48名、大人42名（28家庭）

【成果】

- 在園児の保護者や地区町会から期待の声をいただいた。
- 内覧説明会では、参加者のうち就学児童がいる家庭は概ね全員が計画の推進に賛成だった。
- 主に児童発達支援事業所を利用している保護者から、地域の多様な方の利用に対して感染症予防・防犯への対策強化の要望があった。

課題と対応

- 着工が遅れ、試運転の期間がほとんどない状態で地域開放日を迎えることになった。また、一般来訪者の入館管理について、セキュリティ強化を求める既存施設利用者からの要望があり、ICタグによる電子入館管理システムを導入する計画を追加した。入館管理機器をキッチンカーに設置管理することとし、キッチンカー設置後おおむね2か月間でシステムの稼働テスト、職員動線の確認を行う計画とした。

団体にとっての効果

- 民間学童保育を運営する団体と連携し、地域へ告知することができた。